

# 続拾遺和歌集

卷第三

夏歌

家に百首歌よみ侍りけるに中務卿宗親尊親王

よるはもえひるはきえゆく蛍かな

衛士のたく火にいつ習いひけん

卷第七

雑春歌

題しらず

法橋春誓

き舟川やましたかげの夕やみに

玉ちる浪はほたるなりけり

巻題十四

恋歌四

恋歌の中に

源家長朝臣

とぶ蛍それかあらぬか玉のをの

たえぬばかりに物おもふころ

恋歌の中に

法眼慶融

つつめども我さへ身にぞあまりぬる

蛩よりけにもゆる思ひは

「国歌大観」より